

7月の基調判断

新型コロナウイルス感染症の影響を受け
持ち直しの動きは弱い

製造業	➡	緩やかな持ち直し	住宅着工	➡	一部に弱い動き
観光	➡	厳しい状況が続いている	公共工事	➡	横ばい
小売店販売	➡	持ち直しの動き	雇用	➡	横ばい
乗用車販売	➡	弱含み	企業倒産	➡	低水準で推移している

[直近の3ヵ月(5月~7月)の変化の方向] ➡上向き ➡横ばい ➡下向き

注) 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

大分県の主要経済指標の動き

	2020.5	6	7	8	9	10	11	12	2021.1	2	3	4	5
鉱工業生産指数	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	○	—
小売店販売額	○	○	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○	●
乗用車・軽乗用車販売台数	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
新設住宅着工戸数	●	○	●	●	○	○	●	●	●	●	○	●	○
公共工事保証請負額	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	●	●	○
ホテル宿泊客数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
新規求人数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●
企業倒産件数	●	○	○	●	●	△	△	△	●	○	△	○	○
プラス指標の割合	25.0	50.0	37.5	12.5	25.0	50.0	37.5	37.5	25.0	37.5	37.5	75.0	71.4

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化

2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示

3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計

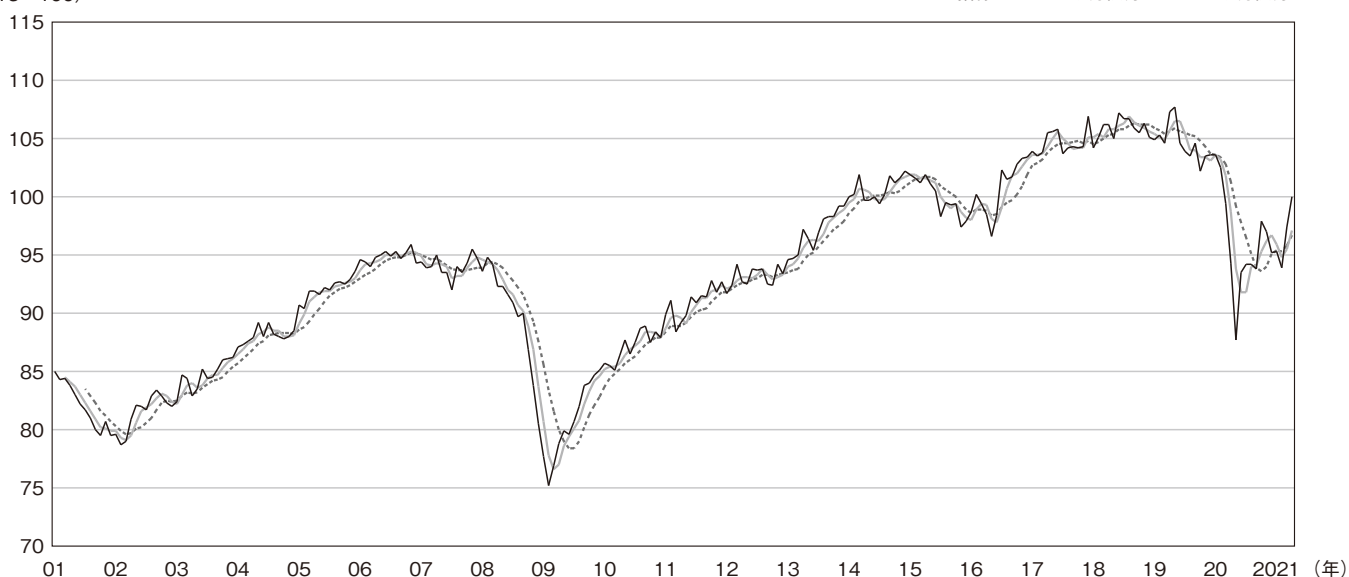
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分

5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK指標 (2021年4月)

(2015=100)

—— DKK指標 —— 3ヵ月後方 7ヵ月後方



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。

*本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標についてCIモデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK指標(CI)によると、4月の指数は前月比+2.6の100.0と2ヵ月連続で上昇しました。項目別では、「人件費比率」や「新車販売台数」、「鉱工業生産指数」などがプラスに寄与しました。